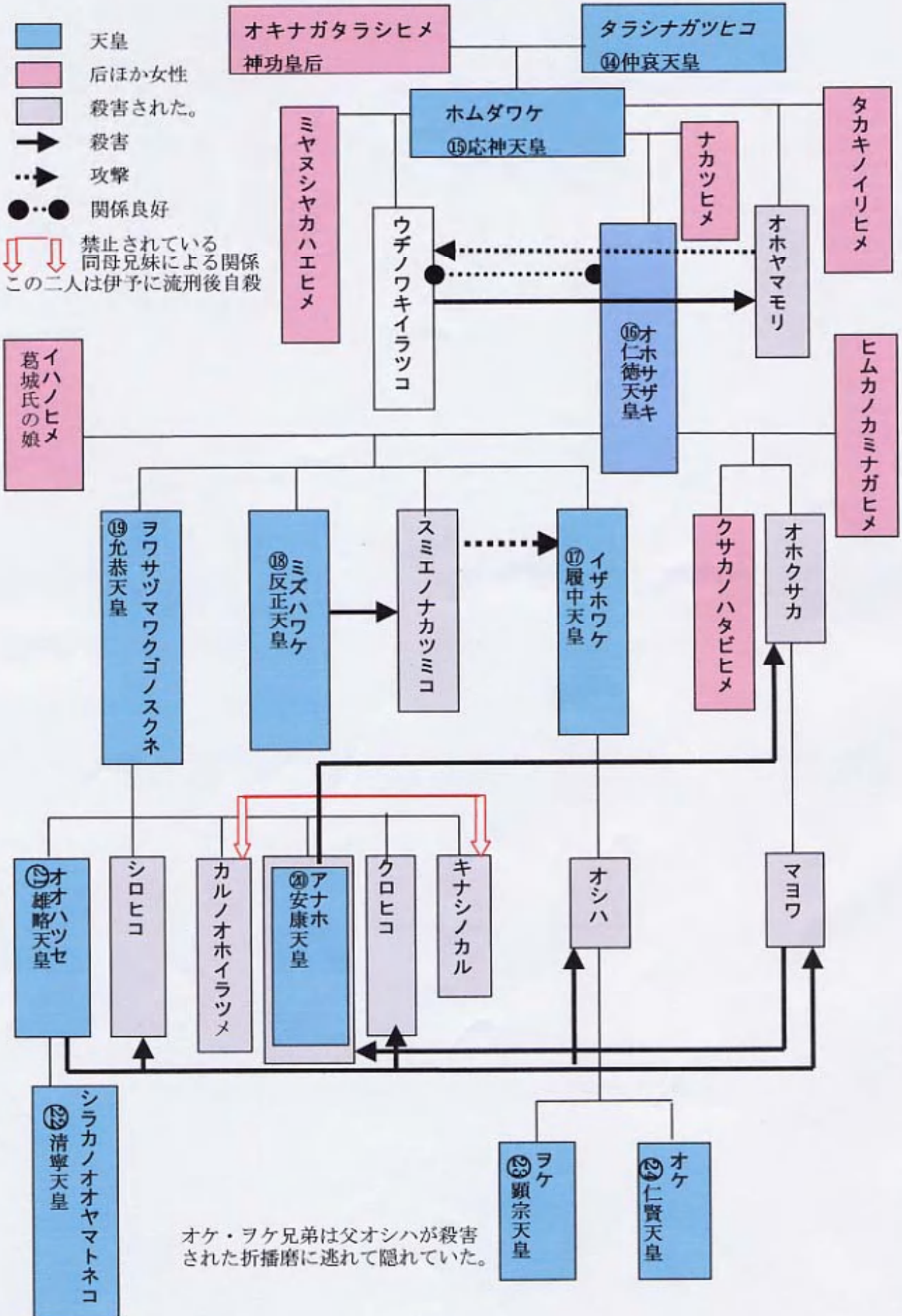


# 天皇関係系図

- 天皇
- 后ほか女性
- 殺害された。
- 殺害
- 攻撃
- 関係良好
- 禁止されている  
同母兄妹による関係  
この二人は伊予に流刑後自殺



## 河内王権の天皇

## 倭の五王

第15代応神天皇　ホムダワケ　品陀和氣（古事記）　誉田別（日本書紀）

宮：軽島豊明宮（奈良県橿原市大軽町）

陵：恵我藻伏岡陵エガノモフシノオカ（大阪府羽曳野市大字誉田—古市古墳群）

仲哀天皇の第4子として神功皇后との間に産まれる。

神功皇后が新羅征伐の折、胎内に宿っていたため胎中天皇とも呼ばれる。

后妃が多く皇子は日本書紀では20人古事記では26人。崩御は110歳（日本書紀）130歳（古事記）

応神天皇時代からの記紀の記述は史実性が高くなっている。河内王権の始まり。

多くの渡来人の来日　百濟より阿直岐（アチキ）　王仁（ワニ）：千字文、論語、　弓月君（ユツキノキミ）

鉄製の農具、武器の普及。職業部民制定。灌漑用池建設。

第16代仁徳天皇　オホサザキノミコト　大雀（古事記）　大鷦鷯尊（日本書紀）

宮：難波高津宮（大阪市中央区）　陵：百舌鳥耳原中陵（堺市大仙公園—百舌鳥古墳群）83歳で崩御。

応神天皇の第4子、母は五百城入彦皇子（イオキイリヒコ）の孫の皇后仲姫命（ナカツヒメノミコト）

幼いころから聡明で知られ、容姿端麗で広い心の持ち主であったと伝えられる。

父応神天皇が若いウチノワキノイラツコを可愛がり後継者と考えていた。

兄のオオヤマモリとオホサザキにこれに関して質問。オホサザキは父の心を察した返答をした。

応神天皇没後、オオヤマモリが皇位を狙いウチノワキノイラツコの殺害を企てるも、オホサザキの支援もあり逆にウチノワキイラツコに殺害される。残った二人がお互いに皇位を譲り合い、ウチノワキイラツコの死後（日本書紀では自害したとある。）オホサザキが皇位を継承した。

質素を旨とする。　高どのに登り、民のかまどの逸話、3年無税。

土木工事　：　河内の開墾、灌漑池の建設。河内湖の氾濫防止に上町台地の開削。茨田の堤。

女性関係　　皇后　磐之媛命、　陵墓は奈良の佐紀盾列古墳群にある。（奈良市佐紀町）

　　皇妃　日向髪長媛、　八田皇女（日本書紀では磐之媛命死後皇后に。）

ヒュウガノカミナガヒメ　父応神天皇の召し上げられたカミナガヒメに一目ボレ、父にたのみ自分の妻に。

皇后　磐之媛命（イハノヒメ）天皇と有力豪族葛城氏の葛城襲津彦の娘との結婚。誉れ高く嫉妬深い女性。

吉備国の美しい娘クロヒメを宮中に。皇后の嫉妬に船で逃げ出す、船から降ろさせ故郷まで歩かせる。

八田皇女を宮中に入れることを皇后が反対、皇后が紀伊国に柏の葉をとりに行った際に宮中に入れた。

皇后はこれを知り、柏を海に投げ捨て淀川を遡り山城から大和へ。のち山城の筒城宮に居住。

古事記では天皇が迎えに行き河内に帰還。日本書紀ではそのまま帰らず亡くなる。

メトリのオホキミ　天皇が異母弟ハヤブサを迎えに行かせるも二人が結ばれ、メドリがサザキよりハヤブサが優れている言う歌を作り、謀反を仄めかしてるとして、二人は殺害された。

皇后　磐之媛命（イハノヒメ）との間に第17代履中天皇、第18代反正天皇、第19代允恭天皇の3人の天皇が産まれている。　83歳で崩御。



第17代履中天皇 イザホワケ伊邪本和氣命（古事記）イギホワケ去来穗別（日本書紀）

宮：磐余雅（若）桜宮（イワレノワカサクラノミヤ）（奈良県桜井市池之内）

陵：百舌鳥耳原南陵（大阪府堺市石津ヶ丘—百舌鳥古墳群）

仁徳天皇の子、母は磐之媛命

祝いの宴の最中、イザホワケが酔って眠った間に、すぐ下の弟住吉仲皇子（スミノエノナカツミコ）が宮に火を放った。眠ったままのイザホワケは火事から助けられ、途中目をさまし、なんとか大和まで逃げ、石上神宮に落ち着く。

二番目の弟ミズハワケ（反正天皇）が心配して訪ねてきたが、イザホワケは疑心暗鬼になっていて、先ずナカツミコを討ってくるよう命ずる。ミズハワケは ナカツミコの側近の隼人をそそのかし、ナカツミコを殺害させる。後日この隼人を殺害している。

履中天皇はその後磐余雅（若）桜宮で即位、都を設けて政務を行った。

64歳で崩御

第18代反正天皇 タジヒノミズハワケノミコト娘水葉別命（古事記）

タジヒノミズハワケノスメラミコト多遲比端齒別天命（日本書紀）

宮：河内国丹比柴籬宮（タジヒノシバカキノミヤ）（比定地未確定）

陵：百舌鳥耳原北陵（大阪府堺市北三国ヶ丘町—百舌鳥古墳群）

仁徳天皇の子、母は磐之媛命

淡路島に生まれた。端井（ミズノイ）の水を産湯として用いて、歯並びが美しいことから名がつけられた。上背は九尺二寸で容姿に恵まれたとされる。

この天皇についての記述はあまり記されていない。

第19代允恭天皇 ヲアサヅマワクゴノスクネノミコト 男浅津間若子宿禰命（古事記）

ヲアサヅマワクゴノスクネノミコト 雄朝津間稚子宿禰尊（日本書紀）

宮：大和遠飛鳥宮

陵：恵我長野北陵（エガノナガノノキタ）（大阪府藤井寺市国府—古市古墳群）

仁徳天皇の子、母は磐之媛命

慈悲深い心の持ち主で、壮年には病に冒され身体が不自由になった。

兄反正天皇の崩御に伴い、即位を依頼されたが、病を理由に辞退した。しかし周りの度重なる要請、懇願により、最終的には即位に同意した。新羅からの名医により病は治り78歳まで生きられた。

残された事業として、当時勝手な氏姓を名乗り、争いも絶えなかったため、盟神探湯（くがたち）を設けて、真偽を試された。これは真実を述べている者は湯の中に手をいれても、何ともないが、嘘を言っている者は手が焼けただれると云う方法であった、（これは呪術の一種とのこと。）これにより、氏姓が定まった。

女性問題もあった。皇后の忍坂大中姫命（オシサカノオオナカツヒメノミコト）の美しい妹の弟姫（オ

トヒメ)に心を惹かれ、反対を押し切って、召し入れた。皇后の嫉妬を心配し宮中には入れなかったが、度重なる行幸が重なり、皇后出産間近になっても止まないため、皇后の怒りは収まらず死を覚悟するに至り、遂に天皇は謝った。その時に産れたのが後の雄略天皇。

允恭天皇が崩御された後は長子のキナシノカル皇子が次ぐことになっていたが、美しい妹のカルノオオイラツメと恋愛関係になった。当時同母兄妹の関係は禁じられていたため、これが露見して、古事記では、カル皇子が伊予に流刑となり、カルノオオイラツメがカル皇子を追いかけて伊予に行き、二人で自殺している。日本書紀ではカルノオオイラツメだけが、伊予に流刑となった。

## 第20代安康天皇 アナホ 穴穂皇子

宮：石上穴穂宮（現在の天理市にあたる大和山辺郡石上）

陵：菅原伏見西陵（奈良市宝来町字古城）

允恭天皇の子、母は忍坂大中姫命

日本書紀によると允恭天皇崩御後、アナホと兄のキナシノカルが皇位継承を争うも、カルノオオイラツメとの関係など、日ごろの評判の悪いキナシノカルに味方する者がおらず、最後はキナシノカルが自殺し、アナホが即位する。

安康天皇は乱暴者で妃が見つからない末弟オホハツセ（後の雄略天皇）のために、仁徳天皇の子のオホクサカに家臣のネノオミを遣わせ、妹のハタビをオホハツセの妃にと依頼する。オホクサカは快諾し、家宝の玉飾りをネノオミに託す。ネノオミはこの玉飾りに目が眩み、盗み取り安康天皇にオホクサカは妹をオホハツセに嫁がせる気はないと云っていると嘘を報告する。天皇は激怒しオホクサカを襲い殺害し、その妃のナカジヒメを妃とし、後に皇后とする。また妹のハタビをオホハツセの妃とした。

ナカジヒメにはマヨワと云う子がいたが、偶然天皇と母との会話を聞き、天皇が父オホクサカの仇と知る。マヨワは7歳ながら父の仇として天皇を殺害した。

天皇はその結果56歳で崩御。

第21代雄略天皇 オホハツセワカタケノミコト 大長谷若建命（古事記）

オホハツセノワカタケノミコト 大泊瀬幼武尊（日本書紀）

宮：泊瀬朝倉宮（ハツセノアサクラ）（桜井市黒崎—三輪山の南麓）

陵：谷比高鷲原陵（タニヒノタカワシノハラ）（羽曳野市島原 古市古墳の北）

日本書紀によると自己主張が強く、疑い深い性格、兄弟、親族など皇位継承権のある人たちを殺害した。マヨワ 仁徳天皇とカミナガヒメの子オホクサカとナカジヒメの子。安康天皇を父オホクサカの仇と知り殺害。葛城氏に保護されるが、雄略天皇は二人とも殺害。

シロヒコ 雄略天皇の兄。マヨワ殺害を促すも同意せず殺害。

クロヒコ 雄略天皇の兄。同じくマヨワ殺害に同意せず。マヨワとともに葛城氏の屋敷に逃げ込むも、ともに殺害された。

イチノベノオシハ 履中天皇の子。皇位継承権があり、狩りに誘い出して殺害。

殺戮を繰り返した応神天皇であったが、治世の頃には平静な世となっていた。皇后には、安康天皇に殺害



されたオホクサカの妹で先に妃になっていたハタビがなった。

一事主神との葛城山での出会いなど数々の逸話が記紀に記されている。

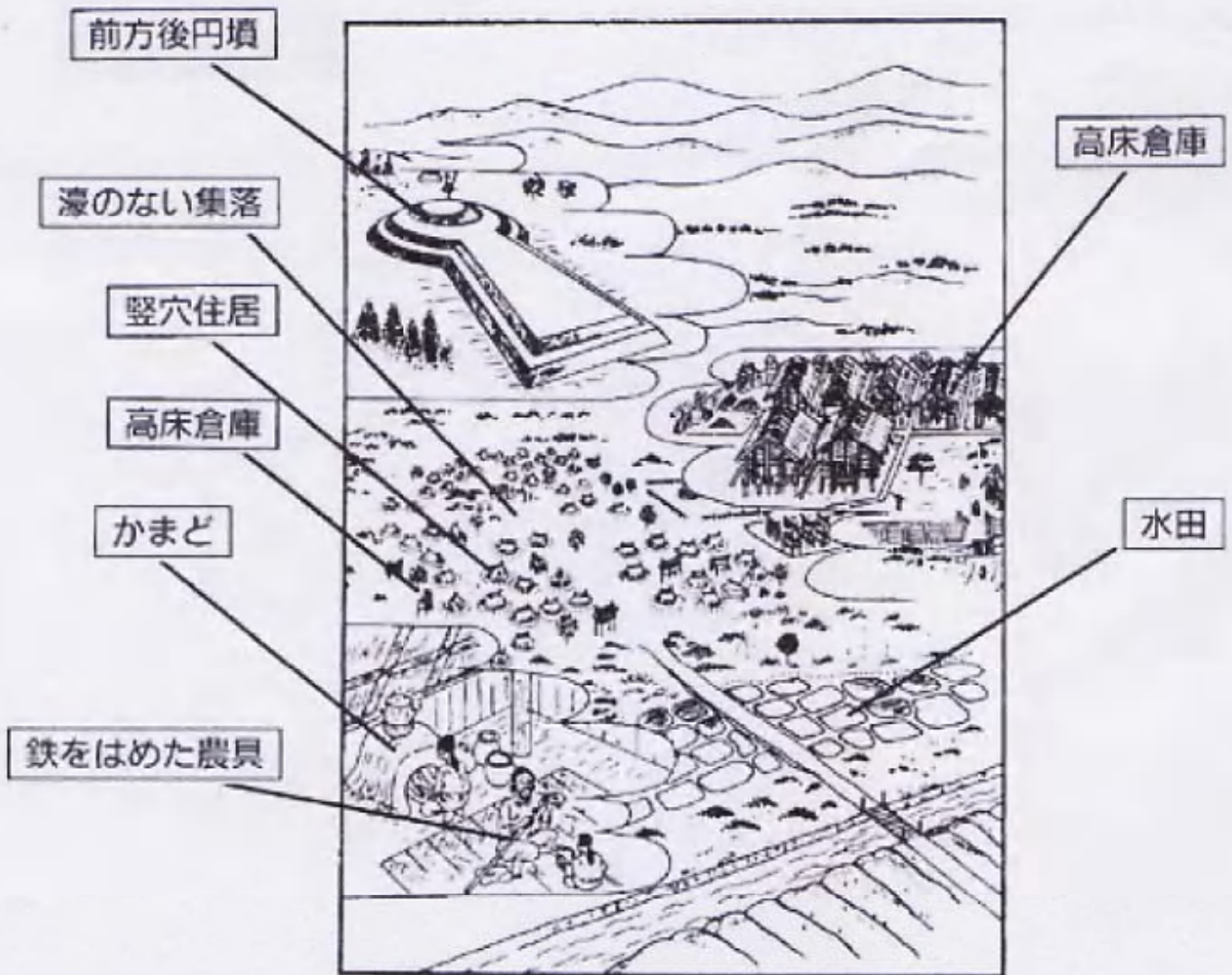
治世中には大和、河内の豪族を制圧し、また吉備氏も配下となっている。朝鮮半島南部にも進出し、任那日本府の兵力で軍事介入も行い、高句麗の侵入を受けた百済の再興にもつとめた。

熊本県・船山古墳の太刀銘や埼玉県・稲荷山古墳出土の鉄剣銘に471年時の「獲加多支齒大王（ワカタケルオオキミ）」とみえることから、雄略天皇時代には、大和朝廷は九州から関東まで支配していたと思われる。

若年には狂暴であったが、晩年はのどかな生活となっている。

万葉集は舒明天皇即位629年以降、150年くらいの歌を集めているが、巻頭歌は、雄略天皇の歌が採用されている。

124歳で崩御した。



(和歌山博物館)